

医学系研究科

ユースメンタルヘルス向上のために県内ネットワークの構築

担当学科等 神経精神医学分野

担当者 福田 正人教授

◎事業概要

本事業は、少子化時代のなかで将来の社会を担う中学生・高校生・大学生などの「ユース世代を対象としたメンタルヘルス向上のための県内多分野ネットワーク」の構築を目的とする。

ユース世代はこれからの社会を担う世代であり、最大の健康問題はメンタルヘルスである。その向上においては、精神疾患の予防以上に精神的健康の向上が課題となる。ユース世代当事者と教育関係者と精神保健医療福祉関係者の協働が必要だが、各専門分野を乗り越えた取り組みは小規模に留まっている。

そこで、ユース世代、教育関係者、精神保健医療福祉関係者、一般市民を対象とした研修会やイベントの開催を通じて、精神保健医療福祉関係者や群馬県精神保健福祉協会(申請者が会長)と連携するネットワークを構築する。

昨年度は、①教育委員会・中学校養護教諭・臨床心理士・小児思春期精神科医・裁判官の5名による「メンタルヘルス・再考—どんな要素があれば『こころが健康』といえるのか』についてのユースメンタルヘルス研修会(2016.2.20.)、②ユース世代の当事者が自らの体験をステージで発表した「こころのふれあいバザー展」(2015.9.5.)、③ユース世代に発症することが多い統合失調症においてユースのテーマを取りあげた「第11回日本統合失調症学会」(2016.3.25～26.)、を開催した。

◎実施事業等

「ユースメンタルヘルス研修会」、「こころのふれあいバザー展」、「すいみんの日公開講座」の三イベントを開催した。

①「ユースメンタルヘルス研修会」

日時: 2017年2月18日(土)

会場: 群馬県庁昭和庁舎35会議室

「10年後の君たちへ」をテーマに、発達障害者支援法の成立から10年経った現在の状況について、医療・教育の立場から4名が話題を提供し、参加者と意見交換した。開催には群馬県教育委員会と群馬県障害政策課精神保健室の協力を得て、教員・養護教諭・教育委員会・スクールカウンセラー・行政・精神医療関係者など約70名が参加した。

②「こころのふれあいバザー展」

日時: 2016年9月3日(土)

会場: 群馬県庁県民ホール

群馬県内の精神障害者の発表・バザー展において、ユース世代の当事者が自らの体験をステージで発表するとともに、本学の医学生であるフローオーケストラが室内楽を演奏した。イベントを通じて若者に精神的健康の増進を図ることの重要性についての理解を促す機会となった。来場者は約1,000名。

③「すいみんの日市民公開講座」

日時: 2016年9月3日(土)

会場: 群馬会館

ユース世代にも身近な睡眠をテーマに精神科・小児科・呼吸器内科の医師3名による講演会に協力をを行い、150名の市民が参加した。

◎期待される成果

本事業の成果は三点である。

第一は、「ユースメンタルヘルス研修会」、「こころのふれあいバザー展」、「すいみんの日市民公開講座」という3イベントの開催を通じて、ユース世代におけるメンタルヘルスの重要性を市民などに向けて広く発信できるとともに、関係者の連携を深めることができたことである。とくに、医療と教育の分野の連携は以前からの課題であったが、2年続けて群馬県教育委員会の協力を得ることができ、ユースメンタルヘルス研修会の参加者の大部分が教育関係者であったことは、おおきな成果であった。また、ユース世代が体験や情報をみずから発信する機会を提供することで、ユース世代の主体性を伸ばすことができた。

第二は、これらのイベントの参加者やスタッフとして、教育関係者が数多く関わり、保健医療福祉関係者と顔見知りとなるなど新たな交流ができ、これにより昨年度に引き続いて群馬県内でユース世代のメンタルヘルスに関わるネットワークを広げる構築できたことである。さらなる発展の基盤を固めることができた。

第三に、これらの活動に本学が積極的に関わることができたことである。準備や運営に、本学の教職員・医学生も関わり、県内他大学の教職員や学生とも共同を進めることで、ネットワーク構築と地域貢献を実感できる体験となった。